

の肥厚も減少傾向となっている。ER陽性乳癌の再発ではホルモン療法を中心とした治療戦略となるが、本例ではホルモン療法投与中に再発再燃を来すことから化学療法を付加する必要がある症例であった。

SERM, AI剤をすべて使用された状態でのSERDのフェソロデックスは効果の期待が低いことが予想されたがTS-1を付加することにより再々度PRを得ることが出来た。タモキシフェンと5FU系薬剤の併用はCUBC試験などでその有効性が術後補助療法で示されているが5FU系薬剤とAI剤やSERDの併用はまだ確立されておらず、症例報告までの結果である。本例はER陽性乳癌でもホルモン療法への反応がやや低いタイプであるが、5FU系薬剤に繰り返して反応性をよく示し、ホルモン療法との併用でもその効果が示した。決して推奨される方法ではないが経口薬剤を中心とした1治療例として報告する。

20. ホルモン受容体陽性閉経後進行・再発乳癌に対するフルベストラントの使用経験

遠藤まり子,¹ 櫻井 孝志,¹ 吉水 信就¹
野坂 香織²

(1 埼玉社会保険病院 外科)
(2 同 薬剤部)

【はじめに】フルベストラントはSERD (Selective Estrogen Receptor Downregulator) に分類され、ERへのエストラジオール結合の競合的阻害作用、ER受容体分解促進があり、薬剤耐性を獲得しにくい可能性が期待されている。当院での使用症例について、その効果、使用における問題点を検討する。【症例】症例① 71歳女性、右乳癌cT4dN3M0。化学療法(TC6サイクル)にてPR。内分泌療法としてANAを開始するも9か月後局所PDのためフルベストラントに変更後Btおよび領域リンパ節照射を実施、現在まで9ヶ月間PR中。症例② 60歳女性、右乳癌cT2N1M0の診断で術前化学療法施行(TC6サイクル)。Bp+Ax実施後、術後補助療法としてANA施行。2年7か月後右鎖上、内胸リンパ節腫大のためフルベストラントに変更、現在まで9か月間PR中。症例③ 65歳女性、右胸水貯留で内科受診。左乳癌cT2N3M1(肺、胸膜)の診断でLET開始するも、1ヶ月後自覚症状増悪、胸水増加のため、フルベストラントに変更。胸水、自覚症状ともに改善。【まとめ】少数の経験ではあるが、非ステロイド性AI耐性症例における次治療の有効な選択肢となる可能性がある。

21. 各AI剤で忍容性が保てず Fulvestrant 使用となった1例

大久保文恵,¹ 永井 成勲,¹ 井上 賢一¹
坪井 美樹,² 黒住 献,² 久保 和之²
戸塚 勝理,² 林 祐二,² 松本 広志²
武井 寛幸,² 大庭 華子,³ 黒住 昌史³
(1 埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科)
(2 同 乳腺外科)
(3 同 病理診断科)

【症例】51歳女性。左乳癌 [Invasive ductal carcinoma, HER2 (-), ER (+), PgR (+), T2N1M0 Stage IIB] の診断で術前化学療法 (AC followed by paclitaxel) 後に乳房部分切除術+腋窩郭清術を施行した。病理診断では、効果は grade 1a, ypN0 (0/15), ly+, Surgical margin (-) であった。乳房照射後にホルモン療法を開始したが、ANA, EXE, LET, TAMの全てにおいて副作用(関節痛 Grade 2, 皮疹 Grade 1~2)で継続できなかった。術後5年目に徐々に増悪する胸骨痛が生じたため、精査したところ、肺、肝、胸骨転移が発見された。Fulvestrant (500mg/回, 計8回)の投与を開始したところ、肺、肝転移に奏効した。各AI剤で忍容性が保てず Fulvestrant が奏効した症例を経験したので報告する。

〈セッション6〉

【再発化学療法】

座長：永井 成勲

(埼玉県立がんセンター 乳腺腫瘍内科)

22. 当院におけるエリブリン使用の一例

村上絵里子,^{1,2} 新井 徹,¹ 小澤 直行¹
小関 淳,^{1,2} 石原 通臣¹
(1 本庄総合病院 外科)
(2 日本大学医学部 乳腺内分泌外科)

症例は65歳女性。平成10年頃から左乳房腫瘤を自覚するも放置。平成19年1月に腫瘤部の疼痛および皮膚潰瘍が出現し、同年8月に他院受診した。腫瘍は6cm大で針生検にて硬癌であった(ER-, PgR-, HER2: 0)。自宅近くの当院を紹介され、左乳癌 T4cNxM0: stage IVの診断にて化学療法を導入した。FEC6クール施行後、平成20年1月から平成21年7月までwPACを施行しPRとなっていたが、末梢ルート確保困難であり本人の希望も考慮し同年8月からTS-1の内服に変更したところ、平成23年9月左乳房皮下に1cm大の腫瘤を認め生検した。病理にて adenocarcinoma, ER-, PgR-, HER2: